

酒々井町郷土研究会々々報

第 52 号

平成元年4月1日
発行
酒々井町郷土研究会
編集部

長勝寺の記録

加川 治良

長勝寺は、幻の寺と言われていたようですが、酒々井町史の通史編下巻に詳しく紹介されています。現在、発掘調査が行われていますのでその全容が分かるのも遠いことではないようです。

覚

東西三拾間余

一 除地境内 南北拾五間

一 石高五石七斗三升町村兩分

一 客殿 庫裡 門 三棟

一 壇方九軒

右之通相違無御座候以上

下総印播郡本佐倉町

文政十三年庚寅年 長勝寺 印

閏三月日 無住ニ付キ

白井 妙伝寺 知蓮院印

壇頭 善右衛門印

壇方総代善兵衛印

他 江戸時代の「本土寺末寺帳」

に記載されています。寺組合帳では妙勝寺(佐倉)、妙泉寺(白井)の三寺組合で無住とあります。鹿寺にないのは寺格が高かったからでしょう。

「平賀本土寺過去帳」は「千葉果史料」中世編として公刊された中世史料の基本史料です。そのなかにはサクラの傍記された靈名が多く出ています。

近刊された「千葉県の歴史」の「戦国期の佐倉の人々」外山新司氏の研究発表が参考になります。当時の平賀本土寺の法脈は佐倉の弥富・長福寺ですが、ヤトミと別記されていますのでサクラとあるのは現在の本佐倉を意味し、ここに長勝寺が出ています。

サクラとあるのは現在の本佐倉を意味し、ここに長勝寺が出ています。サクラとあるのは現在の本佐倉を意味し、ここに長勝寺が出ています。

「本土寺過去帳」には、多く

の興味のある記録があります。
廿五日 本内孫三郎殿・横作内源五次郎殿 明応五・六月 佐倉城中 被誅
廿九日 口存 小西高橋与四郎其外成等正覚
口口壬子八月 佐倉打死
又けている部分は判読不能のよ



うです。壬子は天文二十一年(一五五二)のようですから中世の動乱期の一つの合戦があったようです。現在、東京国立博物館蔵になつている長勝寺鰐口の追銘には「下総国佐倉長勝寺鰐口 天文二十辛亥六月二十六日 大旦那吉岡源左衛門尉求之」と彫られています。この二つの史料にみられる地名の一致は注目され

ます。また、前の「本土寺過去帳」は、伊藤・浄泉寺の「中世文書」とも時代的には近いものです。これらの断片をつづつてゆき本佐倉城の城史を作る研究が、町制百年を記念して、地道に継続して行われるべきと思います。歴史とはそういうものようです。

〔注〕

ここにいう中世文書とは、中世の地方一帯の主権者で、佐倉(本佐倉)に本拠を置いていた千葉氏か、伊藤浄泉寺の創建者である栗飯原氏に所領の知行を確認し、保証するため与えられた書状、二通である。浄泉寺文書という。昭和四十六年に町の文化財に指定されている。

▲長勝寺 鰐口

浄泉寺は延徳二年(一四九〇)、栗飯原胤光の開基、周思和尚の開山で、寺号を同心院と称したが、胤光没後、子の胤信が父の菩提を弔うため、父の法号「浄泉」から浄泉寺と改称したという。
鰐口 在寺の入口に吊るし、参詣者がこの前に下る綱で打ち、神仏に敬意を告げる。きざされた錫文から年紀・由緒がわかり貴重である。

長福寺と仏像

相京晴次

上岩橋の長福寺は無住寺で余り知られていないお寺であります。その本尊の阿弥陀如来と臨侍の持国天・多聞天は昭和六十二年二月、佛像研究の権威田辺三郎助先生の調査をうけて、本尊と持国天は平安時代後期、多聞天は鎌倉時代の作と判明、異文化財の指定をうけて、町関係者や地元檀信徒の間に大きな反響を与えました。

その仏像が去る二月七日、東京の仏師によって完全な修理・復原をされて長福寺本堂に安置されましたことは誠に意義あることとあります。

そこで長福寺のここに至るまでの歴史的な背景について振り返ってみましょう。

平安時代後期の久寿二年(一一五五)の「下総国印東莊郷司・村司交名」(「醍醐雜事記」裏文書七)という文書に、中沢前日弘益・石橋(岩橋)前田成家・小上(尾上)藤原弘呈・新橋朝

原清里などがあります。

長福寺の仏像はこの石橋成家と同時代であり、深いかかわりをもっていたと考えられますが、どういふものでしょう。

◇◇◇◇

慶長九年(一六〇三)の上岩橋村の檢地帳には長福寺所有の田畑十四筆、一町八畝四歩の記載があり、この外にも山林があった筈で可成り裕福な寺院であったと推定されます。

◇◇◇◇

江戸時代、長福寺にとっては可成り大きな事件がありました。それは大火災です。

「佐倉藩年寄部屋日記」寛延二年(一七四九)六月朔日の記載です。

「上岩橋村名主組頭共より書付を以て申達候。当村真言宗長福寺今昼九ツ時(十二時)に出火、寺客殿長七間、横五間、庫裡長六間、横三間半、阿弥陀堂を軒、但三間四面寺中在之焼失仕候由」以下略

翌二日の記載を要約すると、「長福寺住職は用事があつて召使を連れて柏木村に出かけ、十三歳になる小僧を肩守に残した。小

僧は客殿で手習中座裡の方から出火したので大声で叫んだところ、近所の人達が駆けつけて消火に当たったが、水がないために全焼してしまつた」(文略)

このように長福寺は二四〇年前に全焼してしまつたのですが、この時に本尊の阿弥陀如来・持国天・多聞天は付近の人達によつて救出されたものと思われま



長福寺 阿弥陀如来坐像

この記録で判るように長福寺は可成り大きなお寺であつたようです。

この大火災の中で奇跡的に仏像が救出されたことは、当時の人達の信仰心の厚さと仏恩の廣大無偏さによるものと合掌するものです。

松雲寺の阿弥陀如来

松雲寺は伊藤宇大畑にあり、浄泉寺の末寺であつたと伝えられていますが、今は廃寺となつております。

昨年旧堂が壊されて新堂が新築され、本尊の阿弥陀如来が拝観できるようになつたのと機会に、長福寺阿弥陀如来の発見者である田辺三郎助先生に調査をお願いいたしましたところ、破損は甚だしいが、鎌倉時代の優れた仏像であることが判明いたしました。

町ではこの阿弥陀如来を地元の人達の協力を得て、文化財として保存いたすべく検討中であります。



松雲寺 阿弥陀如来坐像

昭和63年度事業報告書

Main table of activities for the 63rd year, including items like '町内史跡めぐり', '史跡見学会', '史談会', '石仏民俗調査', '野草の会', '歴代町長の墓参', '郷土史講座', '屋形船印福沼周遊', '文化財愛護活動', '会報発行', '運営委員会', '景観新 映画撮影', and '総会'.

第13回定期総会報告
平成元年第13回郷土研究会定期総会が一月二十九日(日)中央公民館講堂に於いて開催されました。
昭和六十三年度事業・決算報告及び平成元年度の事業計画・予算案が承認されました。また役員改選年度にあたり別記の役員が選任されました。出席者九名、お此し、片、来賓福田助役をはじめ多数のご出席者難うございました。
総会終了後、昨年県教育委員会によって映画に収録されましたわが郷土研活動のビデオを観賞しました。尚文化映画が機械の不調で上映できず、大変迷惑をお掛けしました事につき深く

郷土研究会平成元・2年度役員名簿
役員名簿表 with columns for position (役名), name (氏名), address (住所), phone (電話), and a list of names including 小別出光, 白石栄子, 山内展一, etc.

お詫び申し上げます。

会計報告

3月3日(金)
ひな祭りの集い
参加者数 89名
収入 44,500
支出 42,542
残高 1,958
残額 1958円 郷土研少帳

町内史跡めぐり
おにぎりをもって、目に染む青葉を楽しみながら歩いてみませんか。野草の勉強もチョコチョコ参加お待ちしています。
6月11日(日)はハイキング

平成元年度事業計画

事業計画表
事業名 | 説明
1. 町内史跡めぐり | 年1回 教育委員会と共催
2. 見学会 | 果内見学会 年2回, 果外見学会 年1回, 1泊見学会 年1回
3. 史談会 | 年10回
4. 野草の会 | 年4回 七草餅食べ会 2回, 山菜と食べ会 4回, 野草の観察会 2回
5. 郷土史講座 | 年1回 教育委員会と共催
6. 史跡文化財愛護活動 | 町内史跡文化財愛護講座 数回
7. 会報発行 | 年4回 1月、4月、7月、10月発行
8. 運営委員会 | 年5回 懇談会(4回)と行事計画
9. 総会 | 1月29日(日) 第13回定期総会

酒々井町郷土研究会の

皆様へ!!

小泉 菊次郎

暦の上では春になりましたが、郷土研究会の皆様御健勝のことと存じます。

生れ育つて七十有余年、永年住み慣れました東京を離れ、昨年より酒々井町民として皆様の仲間に入れて頂くことになりました。今後共宜敷くお願い致します。

日本に生を享け真実幸福を感じました事は春夏秋冬と言う季節感のある景観です。同じ景勝地に佇みましても森羅万象悉くがその季節独特の風景に溶け込み、只々驚異の眼を見張るのみで、二度、三度と訪れた土地も何か所もありました。

趣味は山歩きと釣り、旅行特に全国神社仏閣の巡拝、北海道から沖縄と足跡を残して参りましたが、新名所の瀬戸大橋も近い中に渡って見たいと思っております。

酒々井町郷土研究会の旅行に参加させて戴きました感想としては、旅と申しますと遂々乗物を利用する觀念に捉われ勝ちですが、手近に足る遊る探究の価値充分な所旧蹟の有る

事が判りまして大収穫でした。

成田、酒々井、佐倉、臼井、ユーカリヶ丘と地名だけでも何かと探究心を起させるような気がして参ります。自分なりに健康維持を兼ね、足で稼いで、言い伝えを調べてみたくなりました。

私も研究会の皆様方の和やかな雰囲気の中で楽しい旅行のお陰と感謝致しております。

親睦と健康を兼ねました研究会の一層の発展を希望しまして、筆を擱きます。

「老いを仰たかに」 生きる

酒々井町に
居を定めて三年
婦人会を初めと
して謡曲、習字、ダンス、大

正琴、マジヤンと私の友達の輪
はどんどんとひろがっています。私は長

男家族と一緒なので好きな事が思い通りに出来て大変幸せに思っています。

先日、毎年恒例の六カプル(最高年齢八十才)が集つたの親睦マシヤン大会に参加しましたが、まことに和気あいあいと楽しい一日を過ごしました。評論家樋口貞子さんの高齢化社会における「マジヤン」のすすめ



泉をかこんで一休み
くんでもつけない泉のよに
よもやまばなしがつかうお仲
どうぞ、あなたも間に

を讀み、吾が意を得たりの感を深くし
独り悦に入つて居ります。次にそれを
要約しますと、

① マジヤンは比較的場所を
とらない。

② 若干の騒音以外何ものも排
出しない。

③ 指先をよく使うのでポケ
防止になる。(手は外部に
あらわれた脳と云言わ
れる)

④ 頭も使う。上りの手を考え
相手の手の内に思いをめぐ
らす。戦略戦術、頭もは
常に複雑に働いている。

⑤ 暇つぶしに好適。長い時間を
集中して使える。それだけに
徹夜などして健康にさしつか
えない様に気をつける。

⑥ 四人揃わないと出来ない。四人
という賑やかな人数が顔を見
合せて楽しむというところは、人間関係
をつくるにふさわしい。碁、将棋も勿
論結構ですが、二人だけ、マジヤンは
人数二倍の賑やかさ。

⑦ 勝敗に運の要素が強い。他の事では
中年以降覚えたもので世に勝れた能力
を發揮する可能性は稀ですが、マ
ジヤンはつきとえ回つてくれれば下手
でもたまには勝つので結構楽しめる。

以上の様な事を書いておられました。
二人で楽しめる碁も勉強してい
ます。これは旅先で主人と楽しめるよ
うにと始めました。

ダンスも始めて三年になろうとして
いますが、その楽しさにのめり込んで
います。セロキロ近い私と踊って軽いと言
下さる方がいると素直に喜んでこれか
らでもない、少しでも上手になりたいと励
んでいます。

又疲れた一刻、大正琴を弾きますと心が
安まります。

人間は足から年をとるより頭から年
をとるといいます。「六十の手習い」「七
十の手習い」でもない、頭を使うこと。
そして持続してゆく事だと思ひます。「下
手の芸でも老いを支える」「下手な趣味
でも楽しみ上手」ならやはり老いをゆ
たかに生きる事にならざると思ひます。
人生八十年の高齢化社会ですが、一
人一人が少しでも長く人生を楽しみ、生
きがいのある日々を過ごせたらいいと思
います。



齋藤敦子

ひなまつりの集い
裏方の記

白石 栄子

今年の七草がゆの会は二月二十四日を用意していたのですが、大襲の日とあつて公民館が休館、急遽三月三日になりました。偶然にもひな祭りの日。それならいっそのことおひな様に因んでということ、ない知恵をしぼつて考えた献立は白酒・ちらしずし・煮もの・白あえ・せりのおひたし・蛤のおすまし・香のもの・デザートは草もちとイチゴと盛り沢山。
三月二日は買い出し日。車二台に分乗して先ずは流通センターへ。蛤のなんと高いこと。何軒もの店を回つて、何とかおれ合う値段で百人分の蛤が手に入りホツと一息つきました。あれこれ仕入れの間にも「あつ、これはタイヨーの方が安い」なんて主婦感覚を發揮して、帰りはタイヨーへ。午後はちらしずしの具だけでも煮ておこうと調理室で下準備。人じん・こんにやく、全てが百人分となると大変な量です。

いよいよ当日、心配していたお手伝いの人達も大勢みえて、調理室は大忙しです。白あえ用のおとうふ二十五丁を摺鉢でするのも壮観でした。お米だつて十キロを炊いて一せいにウチワでバタバタ、大体の目分量でお皿に盛つて足らなくなつて大あわてなんつてことになりました。とにもかくにも色どり美しいちらしずしが出来上つて会場の講堂へ。



講堂には、正面に上田さん宅より一日出張してこられたおひな様が飾られ、かなり昔のお坊ちやま、お嬢ちやま達がお待ちかねで、まずは白酒ならぬ甘酒で乾杯。童心にかえつて、なごやかなおひな祭りを楽しんでいただけたと思うのは準備にたずさわつた者の自己満足でなかつたらよいのですが。

月日	内容	参加人数
1/11	運営委員会	22
1/18	名勝探訪・佐倉道を歩く(船橋)	22
1/29	平成元年第13回定期総会(公民館)	99
2/4	史談会・古佐倉真佐子を讀む会	16
3/25	七草粥献立会	7
3/28	会報編集会議	9
3/3	七草粥を食べる会(ひな祭りの集い)	89
3/5	運営委員会	25
3/15	名勝探訪・佐倉道を歩く(船橋)	28
3/25	会報編集会議	7
3/30	会報発送 配付	18

名勝探訪

佐倉道を歩く

五月・前田で船橋市内は一応終わったので、今回からは新京成を利用して郊外に移ります。

まず東金街道と佐倉街道の分岐点、成田道の道標のある前原交差点を起点として、飯山満のゆるぎ地蔵・大宮神社・徳川幕府の薬草園の経営者であつた丹羽正伯の墓。木っば地蔵・木喰上人観音の墓などを訪ねる。

六月・新京成で鎌ヶ谷に至り鎌ヶ谷大仏を訪れる。次に滝不動を訪ね、再び新京成で習志野駅下車、明治天皇御野立所を経て旧陸軍墓地の日蝕ソウの戦没者慰霊碑を訪ね、今回は習志野散策で道辺の野草を楽しみながら歩きます。

相京記

はいもの花

三月十五日の名勝探訪、佐倉道を歩く当日の朝、電車を待つホームに花一輪、大まかに胸に寄せるように、にこにこあらわれた相京顧問、おはようの挨拶もささげ、つちの庭に咲いたよと、披露されたおはよう。恋人にでもあったような嬉しそうな笑



顔に、万葉集に詠まれているとの聞き覚をに調べてみると、

時時の花は咲けとも何すれぞ母という花の咲き出来すけむ

山人山名那 文部 真磨

とあり、その母にあたる植物とマカサユリ、別名バイモ(貝母)を当てる説があるようす。

ユリ科の植物で、中国原産、生きた植物として入って来たのは江戸時代、享保九年(一七二四)茎の高さは約50cm。上の葉は先かとかつて、そり返る。花の内側に紫色のあみのようなものがある。全体の色はうすい灰緑色で、鱗茎は薬用として使われる。

郷土研行事業内

平成元年4月～6月

	4月	5月	6月
史談会	8日(土) 午後1時(中央公民館) 古今佐倉真佐子を読む会 (現地学習をします)	13日(土) 午後1時30分(中央公民館) 古今佐倉真佐子を読む会	10日(土) 午後1時30分(中央公民館) 古今佐倉真佐子を読む会
名勝探訪 野草の会	27日(木) 午前11時30分 (中央公民館講堂) 山菜を食べる会 申込受付 4月7日(金) 10時 公民館ロビー 会費 500円 定員 60名	10日(水) 午前8時20分 京成酒々井駅 佐倉道を歩く 京成酒々井駅(8:20)→津田沼(新京成線) 一歩歩前原(旧道)→一歩歩・船橋飯山 ゆき・北蔵→大宮神社→光明橋 →丹羽正伯墓→一本の地蔵と観音の墓 →新京成薬師駅→酒々井(雨天中止)	7日(水) 午前8時20分 京成酒々井駅 佐倉道を歩く 酒々井駅(8:20)→津田沼(新京成線) 一線ヶ谷大仏→滝不動→習志野駅 →明治天皇御野立所→習志野旧陸軍 墓地→バス→酒々井(雨天中止)
史跡文化財 愛護活動	4月16日(日) 午前9時 現地集合 2ヶ所とも午前9時作業開始 都合のよい現場にご参加下さい。	第1現場→上岩橋良層・カンカン口横穴群 草刈り 第2現場→伊藤松並木 保護清掃 かま草作業用具を「持参下さい」 (雨天中止) 代替 4月23日(日)	
町内史跡 めぐり	6月11日(日) 午前9時 現地集合 場所→JR酒々井駅中央台口 持ち物→弁当・お茶・飲み物 《酒々井町教育委員会共催》	コース 公民館→上岩橋・長福寺(県指文化財「木像阿 彌陀如来坐像」)「木造持国天・多聞天立像」→伊藤・ 松雲寺(阿彌陀如来像)→浄泉寺(雲板・十一面観音) →伊藤青年館(昼食)→下岩橋・岩橋城跡→京成 宗吾参道駅・解散(15:00頃)	
県外 見学会	4月19日(水) 足利・太田方面 (出発時間) ①伊藤 大炊館前 6:30 ②旧51号農協ガリスタ 6:35 ③中始 日影外→ツツ 6:40 ④中央公民館 6:45 申込受付 4月7日(金) 午前10時・公民館ロビー 会費 4,500円 (定員 45名) キャンセル 実施日5日前までに「会田秀雄」まで	コース 公民館出発(6:45)→足利学校 →はん蒔寺→昼食(いらい茶屋) →浄因寺→太田市・大光院→ 酒々井帰着(午後7:30)	

足利学校(足利市昌平町)
足利学校は國指定の史跡で、平
字時代の初期、今から一〇〇〇年以
上も昔、参議小野篁によって
つくられたと言われているが、我が國で
初めての総合大学として知られて
います。
鐵阿寺(足利市京富町)
國指史跡で源氏足利氏2代目の
義隆が建久七年(二九六)邸内に持
仏像を建て守り本尊の大日如来を
まつたのが始まりで、三代目をつ
いだ義氏が天福二年(二三三)堂
塔伽藍を建立し、足利一門の氏寺と
して隆盛をはかりました。鎌倉時
代の武家屋敷(平城)の面影を現
在に伝えるもので、およそ四百平方
メートルの広い敷地が広がります。
行道山淨因寺(足利市月谷町)
関東の高野山といわれる行道
山は標高四四〇メートル、山腹に
ある淨因寺は和銅七年(七一四)
に行基上人の開創と伝えられる
名刹です。参道から山頂にかけ
て三万三千体といわれる大小の
石仏、行道山十勝など、南面さ
ながらの景勝地で、栃木県の名勝

第一号に指定されています。
大光院(太田市龍宮)
(群馬県太田市本町)
子育て観音の名で知られ、
門前町から発展した太田市が
形成されたと言われている。
花の季節、年一回の県外見学会を
行います。ご参加の程お待ちして
おります。
編集後記
三寒、四温を繰り返しながら
平成の春がやってきました。
先日新聞で「春は黄色から」と
言う言葉を発見しました。改めて周
圍を見ますと、何と黄色の花の多
いこと、早春の福寿草にはじまり蒲
公英の花、菜の花、みずた、れんげ
菜、そして黄水仙など一寸数えてカ
ンばかりありました。皆様のまわり
にも、花の春に誘われて郷土研の行
事も外に出ることが多くなりました。
皆様お誘い合を御参加をお待ちし
て居ります。より良い会報を目指して
編集員一同頑張ります。御協力を
お願い致します。 下子
福寿草咲いて平成始まれり

見学会案内
県外見学会
4/19(水)

